

み た ち

みんなで たすけあう ちいきづくり



第4号
令和7年
2月20日

「子育てママにホッと一息つける時間を！」 11年目の「おひさまくらぶ」



毎月第3金曜日の午前10時、未就学児を連れたママたちが永昌町公民館に集まってきます。子育てサロン「おひさまくらぶ」が始まるのです。ここ御館山校区で唯一の子育てサロンですが、校区外からも参加するママとお子さんが多いのも特徴です。ママたちの体操、お子さんと一緒に手遊びや絵本の読み語り、お子さんをボランティアさんに抱っこしてもらって、ママたちが楽しむ季節のクラフトなど、毎回、工夫したプログラムでママたちの交流の時間が流れています。

昨年12月20日、この日はスペシャルプログラムとして、西諫早図書館読み語りボランティア「ぐるんぱ」さんによる「クリスマスお話し会」がありました。ママのお膝で赤ちゃんたちもゆったりと音楽とお話の世界に浸りました。

さて、この「おひさまくらぶ」を立ち上げて、10年以上取り組んでくださっている3人のスタッフの方にお話を聞きました。

Q:「おひさまくらぶ」は、いつ頃、どのような経緯で誕生したのですか？

A:平成26年の4月、諫早市母子保健事業の「赤ちゃん訪問(産後4ヶ月)」をする中で、「地域に子どもと遊べる場所があるといいです。」というママの声から誕生しました。



Q:「おひさまくらぶ」の運営で特に大事にされていることはありますか？

A:子育てに忙しいママたちが、「実家」に立ち寄る感じでホッと一息つける時間を過ごしてもらえるような空間作りに努めています。ママだけでなく、パパや、じいじ、ばあばにも来ていただくといいですね。

Q:これまでに利用された保護者数、お子さんの数はどれくらいでしょう？

A:コロナ前までは、「ティーコーナー」でのママ同士のコミュニケーションの場があって、毎回10組から20組の参加がありました。コロナ後の今は毎回5組から10組くらいの参加があります。10年間で、のべ800組くらいのママと子どもたちが来てくれたと思います。



発足当時からのスタッフ
芳賀さん・三宅さん・杉澤さん

参加されているママたちの声

- *いつも子どもと二人なので、ここに来るとボランティアさんに抱っこしてもらって少し子どもと離れ、心にゆとりができます。
- *ここでは立場が同じ近所の方と知り合いになれるので嬉しいです。



地域のボランティアさんたちは？

- *まるで孫を抱っこしているようで癒やされます。
- *自分自身の子育てを懐かしく思い出し、少しでも役に立てれば嬉しいです。

おめでとう! 御館山小学校創立70周年

1955年(昭和30年)4月、北諫早小学校の児童数増加に伴い、永昌町に開校した御館山小学校は、今年度創立70周年を迎えました。開校当初は15学級661名の児童数で、中央の渡り廊下の左右に教室がある平屋建ての木造校舎でした。

1992年(平成4年)西栄田町の現在の3階建て校舎に移転し、その当時は19学級651名の児童数でしたが、現在は特別支援3学級を含め27学級、731名の市内で最も児童数が多い学校となりました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、子どもたちの活動を大きく変えてしまいましたが、いつも笑顔であいさつをし、明るい子どもたちの姿に地域は元気をもらっています。これからも学校・家庭・地域が手を取り合って、子どもたちの成長を見守っていききたいものです。



創立70周年記念「文化祭」開催

11月21日(木)22日(金)の2日間、1・2・3年と4・5・6年に分かれ、「創立70周年を祝う会」及び「令和6年度御館山小学校文化祭」が開催されました。

まず記念式典として、校長先生やPTA会長のお話、子どもたちへの記念品(法被やクリアファイルなど)の贈呈があり、各学年ごとの出し物が披露されました。お祭りの踊りあり、校区の紹介あり、歌あり、御小歴史クイズあり、校歌の由来ありと創立70周年をみんなで

盛り上げようという意気込みが伝わる一人一人が主人公の素晴らしい文化祭となりました。

参観された保護者・地域関係者の中には卒業生もたくさんおられ、母校の新しい歴史の1ページを感慨深く見守っておられたことと思います。

また、総務委員会の児童が中心になって全校に呼びかけて作った児童全員の「手形アート」も圧巻でした。大きな虹の絵は子どもたちや御小の未来が希望に満ちたものであることを暗示するかのようでした。旧玄関ホール、現在の学校図書館壁面に展示されています。ご来校の折には、ぜひご覧ください。



創立70周年記念事業「逃走中&鬼退治」を開催

天候に恵まれた1月19日(日)の午前中、御館山小校区青少年健全育成会とPTA役員有志の方々により、「2025逃走中・鬼退治」が開催され、児童114名とスタッフ80名が参加しました。

運動場で実施した「逃走中」では、児童が3人ずつのチームを組み、主に保護者が扮装したハンターから逃げ回りながら、「鬼退治」への参加権獲得を競いました。子どもたちがハンターに捕まらないように助けてくれたのが2体の恐竜です。子どもたちは恐竜の助けを借りながら地域スタッフがセッとした5つのミッションに挑戦して、早く3つをク



リしたチームから「鬼退治」へ進むことができました。「鬼退治」は、ボールを投げて400個の紙風船をつぶし、鬼を退治するゲームでした。子どもたちは、時間内に協力しながら、見事に邪気(感謝を忘れた心・親切にできない心・友人や家族を大事にできない心)を祓うことができました。

ハンターや恐竜を担当された保護者の方は「大変な役だったが、子どもたちの笑顔や楽しむ姿を間近に見ることができて嬉しかった。」と話しておられました。閉会式では山口校長先生から、一人一人に記念のリストバンドが手渡されました。

開催にあたり、綿密な計画を立て、準備を進められた古賀健全育成会長をはじめ、関係の皆様方のお力が「創立70周年記念事業」の大成功につながったものと思います。ご苦労様でした。



心温まる世代間交流



西栄田町では、三世代交流会が30年以上続いています。今年11月24日(日)の寒い早朝、子ども会、婦人部、老人会、班長など80名以上の老若男女が公民館に集合しました。

男性が外で薪を燃やしてもち米50kgを蒸し、餅つきの始まりです。餅をつく人、こねる人がリズムに合わせ、杵の香りする餅に仕上がっていきました。老若女性たちはつきあがった紅白の熱々の餅を小さくちぎり、丸めて箱に並べます。高

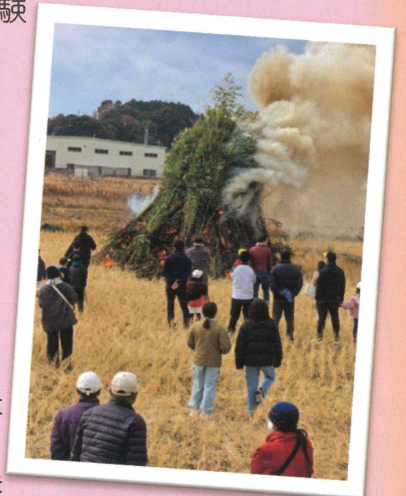
学年の子どもたちは、大人と一緒に豚汁、おにぎり、ぜんざい等を作って大部屋に配膳しました。大人数が一同に食べる食事はとても美味しく、おかわりしている子もいました。参加した70代女性は、「町内の老若男女が参加した貴重なひとときでした。子どもたちにとって、今日の体験はいつまでも心に残ると思います。」と話しておられました。

栄田町では、40年ほど前から鬼火を行っており、今年1月5日(日)に本明川近くの水田に100名近くが集まって実施しました。

鬼火は正月飾りなどを燃やして悪を祓い、無病息災や一年の幸せを願うものです。当日朝から、自治会や子ども会、地域の方々などが協力して竹を切り出し、立派な櫓(やぐら)が組み上がりました。

午後1時、地域の方のご指導のもと、子どもたちが櫓に点火すると、パチパチと竹がはじける音と共にたくさんの歓声と笑顔があふれ、厄も飛んでいったようでした。櫓が燃え落ちた跡火で餅やマシュマロ、ウィンナー、芋などを焼き、みんな美味しそうに食べていました。

齋宮(いつき)子ども会長は、「子どもたちは地域の方に教わりながら生き生きと活動していました。年々会員が減って世代を超えた交流が難しくなっていますが、子どもたちが『地域に育まれる』経験が少しでも長く、多くできるといいなと思います。」と言われ、森自治会長も、「参加者が多くてよかったです。今後も伝統を守っていくことは大切だと思います。」と話しておられました。



シリーズ

わが町の元気さん 第2回

永昌町の芦塚 正さん(93歳)です！

芦塚さんは、永昌町に昭和45年頃からお住まいで、現在はお一人暮らしです。93歳とは思えないほどお元気で、町内の行事ほとんどに積極的に参加されています。昨年9月の「のんのご諫早まつり」の「エイサー踊り」にも最高齢で出演され、みなさんに元気を与えてくださいました。人望があり、いきいきサロンの代表も長く務めておられました。最近では、スマホのLINEで連絡を取り合うお仲間もおられるそうです。

そんな芦塚さんですが、現役の頃は近所付き合いも子育ても奥様に任せっぱなしだったとか。文句も言わずに自由にさせてくださった奥様と国内外への旅行を楽しまれていたそうです。その後、体調を崩された奥様にお料理を習いながら介護をされた生活があったからこそ、今一人でも不自由なく暮らせているとおっしゃっています。

元気で長生きの秘訣は、イベントに進んで参加すること、コミュニケーションと運動を心がけることだそうです。気さくなお人柄で、いつも笑顔の大先輩！目標にしたいと思います。



*このコーナーでご紹介できる方を募集します！御館山校区在住の方、自薦・他薦どちらでも結構ですが、他薦の場合は、ご本人の承諾が条件です。永昌町公民館までお知らせください。

今年度も和やかに一人暮らし高齢者の集い

10月21日(月)、栄田町公民館で開催された本集いに、今年度は38名の方が参加され、最高齢の方は96歳でした。1年ぶりの再会に会話もはずみ、笑顔いっぱいの会場でした。今年のアトラクションは、永昌東町の「歌とギター演奏」、永昌町の「五日会コーラス」「婦人会・五日会合同のエイサー踊り」、栄田町の「豊世栄会の舞踊」、西栄田町の「アカシヤ会の舞踊」、永昌町や西栄田町の方々のグループによる「サクソ演奏」などバラエティに富んだ盛りだくさんの演目で会場のみなさんも一緒に楽しんでおられました。最後の「ビンゴゲーム」では、みなさんの歓声もピークに達し、楽しい集いが終了しました。



ふれあい見守り事業(手作りお弁当配食サービス)

11月14日(木)、栄田町と永昌町で、昨年度に続いて婦人会手作りのお弁当を、75歳以上の一人暮らしの方にお届けするサービスを実施しました。

2町の公民館調理室では、早朝から婦会の方々が集まって、和気あいあいとお弁当作りに励みました。今年も、野菜中心の健康メニューのお弁当で、煮物、焼き物、揚げ物、和え物など、いろいろな調理法で、彩りと食べやすさに気をつけた献立を工夫したとのことです。お昼前には、配食希望者95名分が出来上がり、地区担当の民生委員が各ご家庭を訪問して対象者に手渡しました。永昌町民生委員の窪田さん(右写真)は、「無事に届けることができ、喜んでもらってよかったです。」とおっしゃっていました。



ありがとうございます。みなさんによろしくお伝えください。

通学合宿への保護者の思いは？

今年度も11月4日(月)から8日(金)までの4泊5日、4年生から6年生の児童20名が、永昌公民館で通学合宿に挑戦しました。期間中は家族に会えず、地域や学生ボランティアの協力で、買い物、調理、片付け、掃除などの生活体験をしながら通学しました。4泊5日、お子さんと離れ、通学合宿に参加させたお母さん方の思いを紹介します。



- ◇ 地域の方、スタッフの方、普段関わることのない方々との交流は、すごく良い経験になったと思いました。3人きょうだいですが、1人いなくて家の中がとても静かな感じがしました。当たり前の日常の大切さを親も再確認できました。来年も参加したいそうです。(4年保護者)
- ◇ 我が家は親自身が友人・ご近所付き合いが希薄で、そのためか、子どもたちも学校以外は家族と過ごすことが多いです。通学合宿を通して、地域になじみ、家庭の外でも交流の輪を広げていければいいなと思っています。(5年保護者)
- ◇ 長期間なので、不安もありましたが、自分で希望して参加しました。とても充実した時間だったようです。子どもが外でチャレンジする機会がもてるのは素敵だなと思いました。(6年保護者)



編集後記

乙巳の2025年は、多くの人にとって、成長と結実の時期となる可能性が高いと言われています。皆様方にとってこの一年が佳き年になりますよう心から祈念申し上げます。

今回の第4号も、御館山校区の魅力満載の素敵な広報紙に仕上げたつもりです。いかがでしょうか。インタビューなどにご協力くださった皆様ありがとうございました。ご感想やご意見などお寄せいただくと嬉しいです。

春は名のみ風の寒さや・早春賦の一節が浮かぶ今日この頃です。お身体ご自愛ください。

編集部:古賀・道越・松藤・川原・中川・木戸・土居 事務局 永昌町公民館 TEL 26-3803